

第一回 かわごえ こども心臓教室が、2015年3月14日 土曜日に開催されました。

記録：小児循環器部門 准教授 増谷 聡

この教室は、埼玉医科大学総合医療センター小児循環器部門が主催で、看護部、MA部門の協力のもと、14時半から16時半にかけて、埼玉医科大学総合医療センター大講堂で開催されました。

定員の30名を超えるご参加をいただきました。

休日に自発的にご参加いただいたお子さん達の、最後までのごい集中力と、目の輝きが印象的でした。遠くは新潟からのご参加もありました。



第一回 かわごえ こども心臓教室

埼玉医科大学総合医療センター
小児循環器部門 主催、看護部、MA協力
日時：2015年3月14日 土曜日 14時半から16時半
場所：埼玉医科大学総合医療センター 会議室

プログラムと目次
司会進行 増谷実行委員長

	ページ
14:30 開会のご挨拶 (先崎秀明教授)	1
14:35 講義	
1. 心臓の働きと心臓蘇生 (石戸博隆講師)	2
2. 心臓の画像 (岩本洋一助教)	8
15:00-16:00 4つの体験 (色別で4班に分かれて)	
a. 超音波で心臓の動きを観察しよう	8
b. 心臓立体模型で立体イメージをつかもう	20
c. AEDを触ってみよう	5
d. 人形に心臓マッサージ(胸骨圧迫)をやってみよう	2
16:00 講義	
3. 心臓の不思議 (栗嶋クララ非常勤講師)	11
4. 学校生活と病気 (大津幸枝認定看護師)	13
5. 命の話 (増谷聡准教授)	18
16:30 終了	

実技担当：
a. 桑田聖子助教、岩本洋一助教、
被験者協力：吉田達彦MA
b. 栗嶋クララ非常勤講師、渋谷智子看護師
宮崎沙也香看護師
c. 大津幸枝認定看護師
d. 石戸博隆講師、佐藤友美認定看護師

撮影協力、船橋大MA
協力、鈴木悦子看護師、齊藤郁子看護師
山下ましろ秘書

ご協力：
AED貸出：日本光電
本提供：トーアエイコー
埼玉医科大学総合医療センター

14:30 に開会し、所用にて出席がかなわなかった先崎秀明教授より、ビデオレターで挨拶がありました。

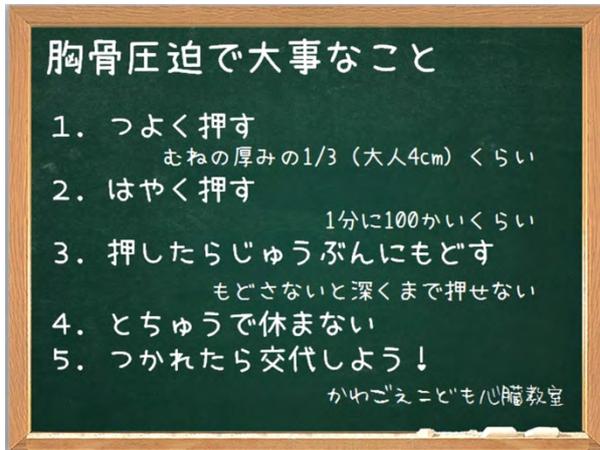


1時間の実技の前後に、30分ずつの講義を行い、計二時間のプログラムを行いました。

14:35 より講義

1. 心臓の働きと心肺蘇生 (石戸博隆講師)

心臓がどんな働きをしているか、止まってしまうとどうなるか、から実際の心肺蘇生の手順、注意点まで解説があり、実技につなげました。



2. 心臓の画像 (岩本洋一助教)

心臓の画像診断について、X線、心エコー、MRI を解説しました。特に、実技で行う心エコーについて、詳しく解説を行いました。

超音波で心臓はどう見えるの？



4つのお部屋



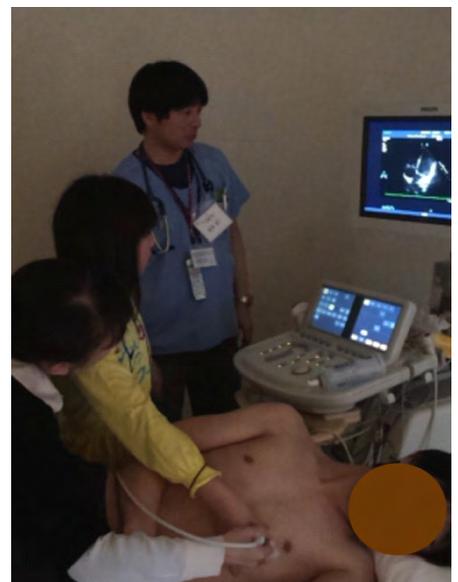
左心室の輪切り

15:00-16:00

実技は、4つの体験を4班に分かれて行いました。

a. 超音波で心臓の動きを観察しよう

みなさん上手な心臓の四つの部屋がみえる断面(四腔断面)を描出し、自分でとったエコー画像をゲットしていました。心臓の動きを自ら捉える体験は、とても面白かったようです。



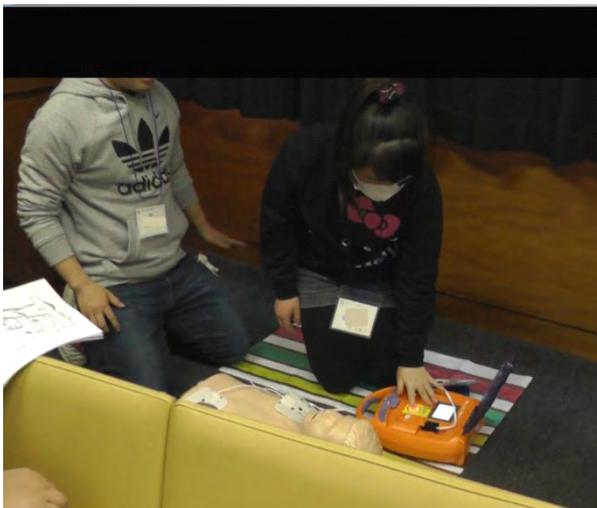
b, 心臓立体模型で立体イメージをつかもう

心臓の立体模型を自ら手に取り、やわらかい棒を通して、実際の血の巡りや、心臓の部屋、弁の構造について理解しました。心臓の四つの部屋がみえる断面（四腔断面）をみる平面を出すには、心臓をどのように切ればよいかを、立体のなかで理解しました。



c, AED を触ってみよう

倒れている人のところに AED が運ばれてからの手順を、各人が体験しました。電源を入れ、音声ガイドに従い、パッドを貼り、まわりへの注意を行いながら、指示に従って放電ボタンを押しました。その他の注意点についても学びました。



d, 人形に心臓マッサージ（胸骨圧迫）をやってみよう

見るのとやるのは大違い。胸骨圧迫と、フェイスシールドを用いての人工呼吸を体験しました。皆さん肘を伸ばして、胸骨の真ん中を、1/3の深さまでしっかりと押して、しっかりと戻していました。リズムについても体得しました。



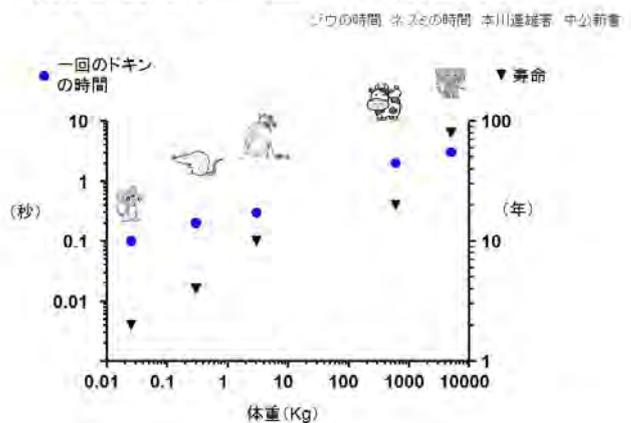
皆さん、実技でやってみて、理解が深まり、興味も深まったようでした。各人の席に着席し、残り30分の講義の聴講です。

16:00 講義

3. 心臓の不思議（栗嶋クララ非常勤講師）

心臓がどのように力を出し、どの位の血液を出しているか、どのようなリズムで打っているかから始まりました。ネズミからゾウまで、哺乳類の心臓は20億回打って止まるはなしや、一つ一つの心筋細胞の動きが、心臓全体で協調して、大きな仕事につながっていることも解説されました。

哺乳類は、一生に20億回打つ



4. 学校生活と病気 （大津幸枝認定看護師）

学校生活の中で、病気をどう考えるかを先天性心疾患児の体験をもとに掘り下げました。病気で頑張っている仲間を、どう思い、どう声かけをするか、あるいは自分の病気と必要な制限をどう周りに伝えるか、を考えました。心機能からみた運動制限の話や、病気があっても心は変わらないという話もありました。



5. 命の話 （増谷聡准教授）

命のリレーによって、一人一人がものすごく少ない確率で産まれた奇跡的な命であること、お母さんが命がけで産んでくれたこと、自分もほかの人も大切な命であること、命には終わりがあることなどが話されました。命を大切にする＝充実した時間を生きることという提起がなされました。命について考えることは難しく、答えも一つではないため、考えるテーマを提供し、以下の宿題が出されました。

宿題

- あなたが生まれた時、お父さん・お母さんがどのように感じたか、聞いてみてください。
- 命について、家族でよくお話をしてみてください。

これで会は終了となりました。皆さん、二時間の講義・実技のプログラムを真剣にこなし、受講証と心臓のカラーアトラスをゲットして、解散となりました。

ご参加いただき、どうもありがとうございました。好評を得て、来年も開催いたします。